



橋のない川

愛を知り、人は光を放ちはじめる。
日本近代を貫いた20世紀の「魂の叙事詩」ついに完全映画化

文部省選定、優秀映画鑑賞会推薦、(社)日本PTA全国協議会推薦、厚生省中央児童福祉審議会推薦他。

第47回毎日映画コンクール日本映画優秀賞・監督賞・撮影賞・美術賞、第5回日刊スポーツ映画大賞監督賞・助演女優賞、第17回報知映画賞監督賞、第16回山路ふみ子賞福祉賞、キネマ旬報ベストテン他。

THE RIVER
WITH NO BRIDGE

東陽二監督作品 原作 住井する

原簿 住井する

大谷直子 中村玉緒 杉本哲太 趙泰勇 色 渡部篤郎 藤田哲也 色 中野聡彦 色 萩原聖人
辰巳琢郎 高岡早紀 安本亜衣 中島ひろ子 加茂さくら 寺田農 中村嘉津雄 高橋悦史
製作総指揮 川口正志 高丘孝昭 製作 山上敏 監 山口信 脚本 東陽二 金秀吉 撮影
川上晴山 美術 内藤昭 音楽 元木正 多し 照明 藤崎英純 録音 久保田幸雄 装飾
安田彰 編集 井上治 美術補 内田欣哉 助監督 萩原吉弘 ガリマア 西友共同製作 東宝配給



THE RIVER WITH NO BRIDGE

ストーリー

物語は一九〇八年（明治四十一年）、奈良の山村、小森からはじまる。しっかり者の祖母ぬいと心やさしい母ふでに大切に育てられる、誠太郎と孝二の幼い兄弟。しかし小森の子供たちは、学校で、路上で、ことごとにいじめられる。小森は被差別部落なのだ。子供だけがいじめられるのだと思っていた兄弟は、お寺の中学生村上秀昭に、小森に生まれたらだれでも皆『エツタ』と言われるのだ、と聞いて驚く。

五年生になった孝二は、淡い想いを寄せていた地主の娘まぢえに闇のなかで手を握られ、胸を熱くする。しかし従姉妹の七重は、「その子悪い子や」と言い捨てる。七重はまぢえが孝二の手を握ったわけを知っていたのだ。だが、孝二のまぢえへの想いはそのまま長くくすぶりつづけ、七重の孝二への想いは実をむすばない。夫を戦争で亡くした母ふでの、ひめやかな大人の恋も花咲くことなく、時が流れる。

一九一八年、大阪に米騒動が起こる。混乱の中で身分を隠して生きる米屋の主人徳三郎。しかしその娘あさ子は、父が隠しても私は自然に知っていたのだと誠太郎に語り、二人の気持ちは一気に近づく。同じころ、長い放浪の旅から小森に帰って来た秀昭は、友人たちと『水平社』を組織する。深い人間愛を訴える『水平社宣言』の草稿を胸に抱いて、祖母ぬいは静かに泣く。

こうして一九二二年（大正十一年）三月、全国水平社は創立された。しかし、その同じ年の夏……

住井すゑのライフワーク『橋のない川』が、ついに完全映画化された。原作は、現在までに六巻で六〇〇万部を完売した大ベストセラーで、最近英訳出版された第一部は、海外で大きな反響を呼んでいる。

映画は、この原作の流れに沿いながら、時には大胆に新しいシーンをつけくわえ、美しい四季の風景のなかで、明治から大正時代を、人間の尊厳をかけて激しく生きぬいたひとびとの生活を描いていく。

鋭い感受性に恵まれた幼い兄弟。二人をたくましく育て上げる女たちのやさしさと強さ。その家族を中心に、みずみずしい恋、深い友情、そして差別にあらがって敢然と戦う青春群像が、あざやかな映像に織り上げられていく。

監督は、『サード』、『もう頬づえはつかない』など、さまざまな問題作を数多く手がけてきた東陽一。撮影は『つぐみ』の川上皓市、美術は九〇年度のかずかずの美術賞をさらった内藤昭など、ベストスタッフ。

主演は大谷直子、中村玉緒、高橋悦史、杉本哲太など重厚な演技陣。くわえて渡部篤郎、高岡早紀、安永亜衣、中島ひろ子といった新鮮なメンバーが力いっぱい活躍している。

日本映画の最高水準を示し、同時に社会的な意義を持った映画の製作をめざすという西友の理念と、映画『橋のない川』製作にかける部落解放同盟の情熱が手を結び、二十世紀をつらぬく日本人の〈魂の叙事詩〉が、いま、ここに映画となって誕生した。

監督のことは ● 東陽一

映画はまず面白くなければなりません。「面白さ」の意味にはいろいろな深さがあります。が、ともかくそれが映画の基本です。

住井すゑさんの『橋のない川』は、私には、ある深い意味でも『面白い』小説でした。ここには、差別と貧困にあえぐみじめな人々ではなく、日本人総ぐるみでしめあげてくる差別の構造のなかで、かえって自分のういういしい感受性をみがき、自分の内部の温度を上げて、みずから発光体のように光り始める人々」が、情感ゆたかに描かれています。

私がこの小説を映画化して描きたかったのは、まさにこの「みずから発光体として輝きはじめる人々」の美しさにほかなりません。その美しさこそがこの映画の「面白さ」の核なのだと思っています。

橋のない川



上映時間 2時間17分

貸出料 ¥80,000

(映) 博映商事

〒810 福岡市中央区舞鶴1丁目3番31-220号
TEL. (092) 741-0306 (代表)
FAX (092) 741-6628